

令和6年度 学校評価

内子町立小田小学校

- 1 実施期日 令和6年12月～令和7年2月 対象 保護者20名 児童29名 教職員10名
 2 評価 5段階評価（そう思う・だいたいそう思う・あまり思わない・思わない・分からない）
 3 評定 肯定的意見・・・「思う・やや思う」、否定的意見・・・「あまり思わない・思わない」

教育目標	ふるさとに誇りを持ち、自ら学び、自ら考える児童の育成
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力」を育み、子供一人一人が輝く学校づくり ・心の教育の充実を図り、人権が尊重される学校づくり ・「ふるさと小田」のよさを生かした特色ある学校づくり ・安心・安全で信頼される学校づくり

平均80%以上・・・A、但し75%以下がある場合・・・B

	アンケート項目	評価結果	考察・改善	学校評価委員の評価	評定
児童の様子について	○ 児童は楽しく学校に通っている。	肯定的意見 児童 90% 保護者 90% 教職員 100%	「楽しく学校に通っている」の評価が高いが、児童全員が肯定的意見になるよう、努めていきたい。今年度は、学期に1回、中学校との交流会を持ち、一緒に遊びながら交流を深めることができた。	笑顔で元気に挨拶ができて、とてもうれしく思う。子供たちに出会ったときには、気持ちの良い挨拶をしてくれる。 登下校で、元気に挨拶ができています。 できる人と恥ずかしがっている人の差がある。 放課後、友達と一緒に遊んでいても遊びの中心は、ゲームが多いようだ。	B
	○ 児童は、進んで挨拶をしている。	肯定的意見 児童 90% 保護者 95% 教職員 67%	挨拶リーダーを募集し、子供たちが自発的に挨拶ができるよう取り組んだ。「おはよう」の言葉だけでなく、相手の名前を言って挨拶をするなど、全校で挨拶の仕方について、何回も話し合うことができた。		
	○ 児童は、外で遊ぶなど進んで体を動かしている。	肯定的意見 児童 86% 保護者 80% 教職員 100%	天気がいい日は、外に出て遊ぶよう声掛けをした。異学年で遊ぶ姿も多く見られた。		
	○ 児童は、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的習慣が身に付いている。	肯定的意見 児童 90% 保護者 75% 教職員 100%	学期に1回「健康リズムチェック」を行い、基本的な生活習慣の見直しと家庭への啓発を行っている。		
学習指導について	○ 児童は、授業が「分かりやすい」または「楽しい」と思っている。	肯定的意見 児童 90% 保護者 90% 教職員 100%	法令で定められている基準により現在の1・2年生、5・6年生が複式学級対象となるが、教頭が学級担任をすることにより1・2年生のみ複式となっている。	分かる授業・楽しい授業を実践されていて素晴らしいと思う。家庭学習の習慣は、昨年度より上昇しているので引き続き指導をお願いしたい。 スマホ・ゲーム・パソコン等の使用時間を決め、守るよう学校からも定期的に指導してほしい。 補充学習を行っていただくなど、充実した学力の定着がなされていると思う。	B
	○ 児童は、家庭で学習する習慣が身に付いている。	肯定的意見 児童 83% 保護者 70% 教職員 78%	主体的に学び、共に高め合う児童の育成を目指して、対話する力の育成に重点を置いて取り組んだ。少人数を生かして、お互いの意見を練り合う場を意図的に設定して取り組んだ。また、全校で週末の家庭学習に読解プリントを活用して取り組み、家庭学習の充実と共に、読解力育成に努めた。 補充学習「学び舎」では、個別の学習支援を行ったが、参加希望者の拡充に向けて、積極的な声掛けを行っていきたい。		
生徒指導・児童理解について	○ 児童は思いやりのある心が育っている。	肯定的意見 児童 90% 保護者 95% 教職員 100%	友達の優しい行いをカードに書いて、毎週お昼の放送で紹介している。そのカードを「しあわせの木」に掲示し、優しい言動が広がっている。	体験を通して、相手の気持ちを考え、思いやる心が育っていると感じる。 少人数なので、みんなで一緒に遊んだり行動したりすることも大切だが、「一人一人が自分の考えを持ち、周囲の人に伝えることができる」「いつも特定の個人の意見に流されない」「無関心な立場にならない」など、見方をいろいろな方向から学ばせたい。	A
	○ 学校は、いじめや差別のない楽しい学校づくりに努めている。	肯定的意見 児童 86% 保護者 80% 教職員 100%	毎月生活アンケートを実施し、学級担任が個別に話を聞く時間を設けている。そして、児童の実態把握に努めている。また、「おしゃべりタイム」では、担任以外の教員と話す場を設定し、教職員間の情報交換を密にしている。		
	○ 学校は、児童理解や信頼関係づくり努めている。	肯定的意見 児童 100% 保護者 80% 教職員 100%	保護者との関係において、さらに信頼される関係を築くために、保護者の声や気持ちに寄り添い、真摯に対応していくよう努めていかなければならない。		

特色ある教育活動	○ 学校は、小田の人・自然・文化を生かした教育活動の充実に努めている。	肯定的意見 児童 90% 保護者 100% 教職員 100%	学校運営協議会で作成した人材マップを活用しゲストティーチャーを招いたり、校外学習を充実させたりすることで、地域のひと・もの・ことと多く関わることができた。 年度初めに、しっかりと学習計画と人材活用の場面等を見直し、より教育活動を充実させるよう努めていく。	地域の良さを知り、ふるさとや先人の取組を誇りに思える児童に育てほしい。 ふるさと教育等は、小田の特長を活かして良い取組ができていると思う。 小田にあるものと無いものを合わせる教育を望む。	A
健康・安全教育	○ 学校は、健康安全や防災教育の充実に努めている。	肯定的意見 児童 100% 保護者 100% 教職員 100%	避難訓練をより実効性のあるものにするために、計画を見直した。一律に運動場に避難するのではなく、校舎内で待機する場合や、土砂災害が起こる危険性のある場合は、垂直避難をすることを考え、実行した。その際、隣接している、幼稚園・中学校とも連携を図り、取り組んだ。	道路や河川等の危険箇所の情報を共有に努めていただいている。 見守り活動や定期的な訓練がされていると思う。 実態を踏まえて、昼休みに丁寧に歯磨き指導を継続している養護教諭の姿に頭が下がる。	A
	○ 学校は、児童の病気やけがなどの対応を適切に行っている。	肯定的意見 児童 93% 保護者 100% 教職員 100%	地域の自治会との合同訓練では、消火訓練や非常食の試食を行うなど、地域と連携した避難活動を実施することができた。 児童が欠席した時や学校で体調不良になった場合には、速やかに保護者と連絡を取る等、誠実な対応を継続して行う。	子どもを守るのには、学校・地域が連携することが大切だと思う。	A
	○ 学校は、子どもが安心して学べるような施設環境になっている。	肯定的意見 児童 97% 保護者 90% 教職員 100%			
保護者・地域との連携	○ 学校は、学校・学級通信・HPなどで積極的に児童の活動の様子等を伝えている。	肯定的意見 児童 72% 保護者 95% 教職員 100%	ホームページに、毎日の子供たちの様子を紹介することができた。また、地域の全戸への広報誌配布は2回行うことができた。しかし、まだ、地域への学校の様子を伝えられてはいないと思う。学校運営協議会での話合いで、小田自治センターの広報誌の活用の提案をいただいたので、改善を図りたい。	写真付きで、行事の様子が分かり、その経験・体験で子供たちが成長している姿が見え、信頼関係が築けていると感じられる。 学校からの広報で理解できている。 今以上、学校へ地域の人を呼び込んだ方がよい。	B